

第6回 OECD（経済協力開発機構）暴露評価タスクフォース会合 開催報告

平成 26 年 9 月 8 日
独立行政法人 製品評価技術基盤機構
化学物質管理センター

1. 開催日時・場所

平成 26 年 9 月 4 日（木）9:30～5 日（金）18:30 於：NITE スクエア
主催及び事務局は OECD、NITE 化学物質管理センターがホストで開催。

2. 参加者

11 か国の OECD 加盟国、EU（欧州連合）、BIAC(経済産業諮問委員会)、OECD 事務局からの参加者、及びその他日本側関係者を含め、総勢約 50 名。

参加者内訳：

オーストラリア、カナダ、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、日本、韓国、オランダ、スウェーデン、米国、EU（ECHA：欧州化学品庁） 計 11 か国及び 1 地域、BIAC、OECD 事務局

日本からの参加組織：

厚生労働省、経済産業省、環境省、(独)労働安全衛生総合研究所、(独)国立環境研究所、(独)産業技術総合研究所、(社)日本化学工業協会及びその会員、(独)製品評価技術基盤機構

3. 主な議題

今回の暴露評価タスクフォースでは、暴露評価を行うにあたっての技術的なガイダンスを提供するという観点から、特定の産業または化学物質の用途ごとの排出シナリオ文書（ESD：Emission Scenario Document）の作成、用途分類の国際調和、暴露評価およびリスク評価に関するデータベース整備、環境・職業・消費者暴露を報告するためのフォーマット（調和テンプレート）の作成、労働暴露評価、小児の健康、複合暴露等についての議論が、これらの内容に関わる政策担当者、技術担当者、研究者等により行われた。

NITE からは米国が主導している ESDs と、欧州産業界が REACH（化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規則）の下で自主的に作成している特定環境放出カテゴリ（SpERCs：Specific Environmental Release Category）について、それらがカバーする用途分類を比較整理し、カバー範囲の重複又は漏れがないか確認するためのマトリックスプロジェクトの進捗報告と今後の作業について報告し、議論された。

また今回の会合では、多くの加盟国から消費者暴露に関する関連活動の紹介があり、活発に意見交換が行われた。

4. 成果と今後の主な予定

2 日間に渡り活発な議論及び意見交換が行われ、前述の調和テンプレート案などが承認され、NITE 主導のマトリックスプロジェクトは今後の作業に複数の国が引き続き協力することが確認された。それら結果の一部は、11 月開催の OECD 化学品合同会合に報告され、承認を求める予定。

また、現ビューローメンバーの任期交代があり、米国及びオランダが継続指名・了承された。

次回会合は、平成 27 年 6 月に開催される予定。



←化学物質管理センター所長
による開催国挨拶



会議風景→



← 集合写真